

インマヌエル中目黒キリスト教会

2012年7月15日 聖日礼拝

「恵みは前を見て」

ヘブル人への手紙

11章8－19節

13章8－13節

河村従彦 牧師



聖書朗読

新約聖書

ヘブル人への手紙 11章8-19節
13章8-13節

聖書本文は新改訳聖書第三版
(©新日本聖書刊行会) を使用しています。

第二版の聖書はp402~/ 第三版の聖書はp438~

8 信仰によって、アブラハムは、相続財産として受け取るべき地に出て行けとの召しを受けたとき、これに従い、どこに行くのかを知らないで、出て行きました。

9 信仰によって、彼は約束された地に他国人のようにして住み、同じ約束とともに相続するイサクやヤコブとともに天幕生活をしました。

10 彼は、堅い基礎の上に建てられた都を待ち望んでいたからです。その都を設計し建設されたのは神です。

11 信仰によって、サラも、すでにその年を過ぎた身であるのに、子を宿す力を与えられました。彼女は約束してくださった方を真実な方と考えたからです。

12 そこで、ひとりの、しかも死んだも同様のアブラハムから、天の星のように、また海べの数えきれない砂のように数多い子孫が生まれたのです。

13 これらの人々はみな、信仰の人々として死にました。約束のものを手に入れることはありませんでしたが、はるかにそれを見て喜び迎え、地上では旅人であり寄留者であることを告白していたのです。

14 彼らはこのように言うことによって、自分の故郷を求めていることを示しています。

15 もし、出て来た故郷のことを思っていたのであれば、帰る機会があったでしょう。

16 しかし、事実、彼らは、さらにすぐれた故郷、すなわち天の故郷にあこがれていたのです。それゆえ、神は彼らの神と呼ばれることを恥となさいませんでした。事実、神は彼らのために都を用意しておられました。

17 信仰によって、アブラハムは、試みられたときイサクをささげました。彼は約束を与えられていましたが、自分のただひとりの子をささげたのです。

18 神はアブラハムに対して、「イサクから出る者があなたの子孫と呼ばれる」と言われたのですが、

19 彼は、神には人を死者の中からよみがえらせることもできる、と考えました。それで彼は、死者の中からイサクを取り戻したのです。これは型です。

13章

8 イエス・キリストは、きのうもきょうも、
いつまでも、同じです。

9 さまざまの異なった教えによって迷わされてはなりません。食物によってではなく、恵みによって心を強めるのは良いことです。食物に気を取られた者は益を得ませんでした。

10 私たちには一つの祭壇があります。
幕屋で仕える者たちには、この祭壇から
食べる権利がありません。

11 動物の血は、罪のための供え物として、大祭司によって聖所の中まで持って行かれますが、からだは宿営の外で焼かれるからです。

12 ですから、イエスも、ご自分の血によって民を聖なるものとするために、門の外で苦しみを受けられました。

13 ですから、私たちは、キリストのはずかしめを身に負って、宿営の外に出て、みもとに行こうではありませんか。

説教

「恵みは前を見て」

ヘブル人への手紙

11章8-19節

13章8-13節

河村 従彦 牧師



I アブラハムの生涯の第一ポイント ～出る、とにかく出る

A アブラハムへの語りかけ

1 ウルを出るように

2 名が祝福となる

B 信仰的な意味 ～ウルを出る

見えない将来への小さな一歩

→信仰

C 信仰的な意味

～幸いの基をいただいて生きる

1 自分が神さまの祝福？

2 人間が耐えることができない

立ち位置

祝福の構図

～神さまはアブラハムを直接祝福する

のろいの構図

～アブラハムを呪うと自分が神さま

から呪われる？

3 人間が陥りやすい意識

気負い意識 → 祝福を受けているに

過ぎないという意識

特権意識 → 自分は特別だという

意識の克服

4 わたしたちは幸いの基を

与えられている

★ヘブル人への手紙のメッセージ

真の幸いの基であるイエスさまを

見上げて

II アブラハムの生涯の第二ポイント ～イサクを献げるという、 神さまの不可解

A 22章の出来事

—神さまよりイサクが大切になっ
てしまったための神のテスト？

1 イサクを献げよとの命令

→神は嘘つき？

2 聖書の神さまは試みられるだろうか

3 神さまが何を備えておられるかを

明らかにする機会

B 12章の出来事との関連

- 1 12章—わたしが示す地へ行きなさい
—具体的な行き先は知らない
- 2 22章—モリヤの地に行きなさい
—具体的な行き先は知らない

12章は約束の地への地理的な第一歩、

22章は約束を得るための霊的な第一歩

C 摂理の信仰

—備えられた恵みを見る信仰

provision 備え providence 摂理

まとめ ~アブラハムの生涯の二つの
場面から見えること

- 1 結果的に見れば、神さまの導きが
豊かである
- 2 何が何だかわからない問題に
振り回されて生きているのも
人生の現実である

★ ヘブル人への手紙のメッセージ

信仰は主の備えを見て歩む
～イエスさまの恵みがあるから

III イエスさまの恵みに心を向けて

A 時に縛られない 13:8

1 大切な前提

～歴史を通じて変わることがない方

2 時間の外におられる方

3 与えられている今を丁寧に生きる

アブラハムは？

B 場所に縛られない

～むしろ出て行くところにある

13:13

1 大切な前提

～外に出られたイエスさま

十字架

～真ん中にいたい人間とは逆の方向

現実に向き合って行く方向性

2 アブラハムは、どのような人生を
歩んだだろうか

3 わたしたちの混乱、失敗
→しかしそこに主がおられる

おわりに

- 1 恵みは時と場所を越えて
注がれている
- 2 pro·vide の信仰
～前を見る、摂理